

外部評価の対象課題概要

(評価対象課題概要様式)

三一〇二	普及指導課題	特産野菜を安定的に生産出荷するための土壌管理技術の普及支援	取組期間					
	実施方針「課題」	気候変動への対応等環境対策や自然災害等への取組みに対する支援	自	令和4年度				
			至	令和7年度				
部所名	農業技術センター三浦半島地区事務所	担当専門チーム	土壌管理チーム7名					
活動対象	三浦市農協及びよこすか葉山農協管内のダイコン生産者(731戸)、キャベツ生産者(919戸)							
連携機関	三浦市農協、よこすか葉山農協							
1 課題	<p>当所では、夏季休閑畑対策やダイコンのセンチウ対策の一環としてマリーゴールド等の緑肥の普及を推進するとともに、堆肥投入量の減少に伴う土壌環境の改善を図るため、有機物を配合した資材(混合堆肥複合肥料、濃縮堆肥、腐植酸資材)を活用した土づくりを推進してきた。しかし、土づくりの効果は見えにくく、時間も掛かるため、一部の生産者の中には費用や手間が増えることを嫌い、継続しない場合もあることから、生産者の意識を変え、継続的に取り組むよう今後も支援する必要がある。また、昨今の国際情勢の変化により、化学肥料など生産資材の価格が上昇していることから、施肥コスト削減の観点からも適切な土壌管理が必要となっている。</p>							
2 目的	適切な土壌管理の必要性を啓発し、理解促進を図るとともに、堆肥を利用していない生産者に対しては、緑肥の導入や有機物を配合した資材を活用した土壌管理技術を普及し、三浦半島地域の主要作物であるダイコン、キャベツの安定的な生産出荷を図る。	4 活動内容(主な普及指導手法) (1) 適切な土壌管理技術の啓発 ○緑肥作物 ・現地情報の収集 40回 ・関係機関打合せ 2回 ・緑肥作物導入のための事例集の作成・配付 作成数1、配付約1,700戸 ○有機物を配合した資材 ・関係機関打合せ 7回 ・モデル生産者の選定、展示ほ設置 3戸(3資材) ・個別巡回 21回 ・適切な土壌管理技術や低コスト施肥技術の啓発資料の作成・配付 作成数1、配付約1,700戸 (2) 適切な土壌管理技術の普及 ・土壌管理に関するアンケート調査 6回 ・緑肥の作付調査 1回 ・関係機関打合せ 13回 ・講習会 4回 ・情報提供 25回 ・巡回指導 25回						
3 成果目標	ダイコン・キャベツの共販出荷量 (1)ダイコン 32,560t(令和3年) → 37,500t(令和7年) (2)キャベツ 15,190t(令和3年) → 19,750t(令和7年)							
5 普及指導事項の年次目標・実績								
指導事項	評価項目(単位)	実施前	目標	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
			実績	R4	R5	R6	R7	
(1)適切な土壌管理技術の啓発	緑肥作物導入のための事例集の作成・配付(作成数)	0	目標	1				
			実績	1				
		達成度(%)	100%					
	適切な土壌管理を実践するモデル生産者数(延べ戸数)	4	目標	7	13			
			実績	7				
		達成度(%)	100%					
適切な土壌管理技術や低コスト施肥技術の啓発資料の作成・配付(作成数)	0	目標	1	4				
		実績	1					
	達成度(%)	100%						
緑肥の栽培面積(ha)	111	目標	130	150	160	170		
		実績	124					
	達成度(%)	95%						

(2)適切な土壌管理技術の普及	有機物を配合した資材(混合堆肥複合肥料、濃縮堆肥、腐植酸資材)の販売量の増加率(%)	100	目標	110	120	140	150	
			実績	125				
		達成度(%)		114%				

6 令和4年度末までの活動成果と評価

(1) 適切な土壌管理技術の啓発

- 緑肥作物や有機物を配合した資材を啓発するため、現地情報の収集やJAよこすか葉山や三浦市農協など関係機関との打合せを行い、年度内に栽培事例集と啓発資料を作成し、約1,700戸の生産者に配布することができた。
- 有機物を配合した資材を啓発するため、3つの資材のモデル展示ほを設置し、個別巡回により施用方法や土壌診断に基づいて指導した結果、生産者から「資材の導入は土づくりの面から良い」、「続けて施用することで得られる土づくりの効果に期待したい」、「混合堆肥複合肥料の肥料代は慣行と比べて約3割削減になった」という声があった。

(2) 適切な土壌管理技術の普及

- 土壌管理に関するアンケート調査や緑肥の作付調査を実施した結果、堆肥や有機物を配合した資材等の利用実態が把握でき引き続き普及が必要なこと、緑肥に関しては盛夏期に利用できる作物が必要なことが明らかになった。
- 緑肥や有機物を配合した資材を普及するため、農事研究会や農業青年クラブ、新規就農者等を対象に講習会や巡回指導を行い、導入を呼びかけた結果、緑肥の作付面積は124ha(達成度95%)、有機物を配合した資材の販売量の増加率は令和3年度対比125%(達成度114%)となった。緑肥の作付面積が目標達成できなかった要因としては、令和3年度のダイコン、キャベツの販売価格が低迷し、緑肥の新規導入が想定より少なくなったためと思われる。
- 令和4年産のダイコン、キャベツの共販出荷量は、ダイコンは31,110t(目標比83%)、キャベツは17,770t(目標比90%)であった。

7 今後の課題と取組

- 適切な土壌管理技術の啓発については、有機物を配合した資材を利用している生産者であっても資材の効果や施用方法を十分理解していない生産者もいるため、理解促進を図ることが必要である。次年度は、資材ごとの啓発資料を作成・配布するとともに、モデル生産者の選定・展示ほの設置と併せて他地域へと拡大する。
- 適切な土壌管理技術の普及については、肥料高騰の影響から低コストで省力的に取り組める土壌管理に生産者の関心も高まっているため、この機に普及する必要がある。次年度は、JAよこすか葉山や三浦市農協と連携し、作成した栽培事例集や啓発資料を使った指導、普及を推進する。
また、生産者から要望があった盛夏期(7～9月)に利用可能な緑肥作物について検討する。

外部評価の対象課題概要

(評価対象課題概要様式)

畜-01	普及指導課題	農業の担い手の育成支援		取組期間			
	実施方針「課題」	担い手の育成・確保に関する支援		自	令和4年度		
				至	令和7年度		
部所名	畜産技術センター企画指導部	担当専門チーム	普及指導課8名				
活動対象	就農後、概ね5年以内の新規就農者等(主に農業の担い手育成支援事業対象者)						
連携機関	市町村、JA、JA全農かながわ畜産事業センター、神奈川県畜産会、神奈川県養豚協会、かながわ農業アカデミー、農業技術センター						
1 課題	<p>畜産農家の高齢化や厳しい経営環境が続く中、県内の畜産農家戸数は年々減少しているが、毎年少人数ながら新規就農者が確保されている。就農形態や経営における役割などが個々に異なるため、それぞれの課題を把握、整理し、就農年数や技術レベルに応じた段階的な支援により、新たな県内畜産の担い手として定着できるよう支援していく必要がある。また、県内畜産農家戸数の減少により、地域内の同世代の仲間が少ないため、仲間づくりも必要となっている。</p> <p>このため、新規就農者等は基礎セミナーへの参加促進と定着に必要な基本的な技術・経営能力の向上、経営改善に意欲のある農業者は経営発展に向けた経営ビジョンの作成を支援する必要がある。また、経営ビジョンを作成した農業者は着実な実現の支援、かながわ農業版MBA研修の修了者は研修で作成した経営強化プランの実現に向けてフォローアップする必要がある。</p>						
2 目的	新規就農者等の定着と段階的な経営発展を支援し、次世代のかながわ農業の中核を担う農業経営者を育成するほか、常時雇用や規模拡大を行い、優れた経営感覚を有するトップ経営体を育成する。		4 活動内容(主な普及指導手法)				
3 成果目標	-		(1) 農業基礎セミナーの開催 個別巡回指導(1~2年:1回/月) 個別巡回指導(3~5年:1回/2月) 集合研修 3回 (2) ステップアップセミナーの開催 個別巡回指導(1回/2月程度) (3) 経営発展を目指す中核的な経営体の支援 個別巡回指導				
5 普及指導事項の年次目標・実績							
指導事項	評価項目(単位)	実施前	目標 実績	1年目 R4	2年目 R5	3年目 R6	4年目 R7
農業基礎セミナーによる基礎知識の習得	5段階評価で全項目4以上のセミナー生の割合(%)	-	目標	80	80	80	80
			実績	62			
		達成度(%)		78%			
ステップアップセミナー生の経営力習得支援	課題の整理 チェックリストで課題を整理できたセミナー生(人)	-	目標	2	3	2	2
			実績	2			
		達成度(%)		100%			
	解決方法の整理 チェックリストで解決方法を整理できたセミナー生(人)	-	目標	0	2	3	2
			実績	0			
		達成度(%)		0%			
経営ビジョンの作成 適切な経営改善の目標や取組を記載した経営ビジョンを作成したセミナー生(人)	-	目標	2	0	2	3	
		実績	2				
	達成度(%)		100%				
経営発展を目指す中核的な経営体の支援	経営ビジョン達成状況確認表の項目が7割以上を達成した経営体数(戸)	-	目標	3	3	3	3
			実績	1			
		達成度(%)		33%			

6 令和4年度末までの評価及び今後の取組

○農業基礎セミナーによる基礎知識の習得について

セミナー生同士の交流を促すために開講式、閉講式、研修会などの集合研修の実施、ならびに個別巡回指導の拡充を図った。飼養管理技術の向上、環境対策の充実等をテーマに対象者を個別巡回指導し、対象者に必要な課題を抽出し、解決に向けた取り組みを進めることができた。

○ステップアップセミナー生の経営力習得支援について

ステップアップセミナーにおいては、農家毎の経営力についてそれぞれの段階に合致した指導等が図られ、課題の整理や経営ビジョンの作成が達成された。

○経営発展を目指す中核的な経営体の支援について

中核経営体の支援については、県内の優良経営の事例を紹介するなど経営改善の動機付けを進めた。

課題化して間もないこともあり、今後とも計画に即して課題に取り組んでいく。

7 今後の課題と取組

○農業基礎セミナーによる基礎知識の習得について

課題としては、農家ごとの理解度に格差があることが挙げられる。農家毎に異なる知識や技術水準を見定めながら、内容も検討し適切な指導を行うことが必要と考えている。

今後の取組として、上記課題に対応するため1・2年目の就農者の巡回は毎月、3年目以降の就農者の巡回は隔月で実施することを徹底していく。またセミナー生同士の横のつながりが持てるように開講式、閉講式、研修会などの集合研修の実施と拡充を図りたい。また、チェックシートで明らかとなったウィークポイントを今後は重点的に指導する予定である。

○ステップアップセミナー生の経営力習得支援について

課題としては、昨今の飼料高騰により経営ビジョン作成が難しい状況が続いていることから、経営判断に資する情報提供が必要である。

今後の取組として、将来の経営の方向性を探りつつ、飼養管理技術や経営能力の向上に向けた支援を行うため、巡回指導の拡充とともに対象者が出席しやすい集合研修を実施する。

○経営発展を目指す中核的な経営体の支援について

情勢的に経営ビジョン達成も難しい状況にある。今後とも他の優良事例を紹介や施設整備の伴わない経営ビジョン達成方法の検討等の個別巡回指導を通じて経営体の育成につなげていく。